



原 誠則  
検査課長

吉澤 悟  
技師



社会医療法人 壮幸会  
行田総合病院

埼玉県行田市持田

診療科数	22	病床数	504
検査課の構成 (2024年6月現在)	25名		
検査実施件数	プロトロンビン時間	約11,000件/年	
	活性化部分トロンボプラスチン時間	約9,600件/年	
	フィブリノゲン	約1,500件/年	
	アンチトロンビン活性	約300件/年	
	フィブリン・フィブリノゲン分解産物	約2,000件/年	
	Dダイマー	約8,700件/年	
	フィブリンモノマー複合体	約400件/年	

## 液状試薬で使いやすく、安定性も良好。 24時間の診療体制をサポートしています。

### 貴病院と検査課にはどのような特徴がありますか。

**原課長** (以下、原) : 当院は、急性期病院の充実を図り、地域に根ざした信頼される病院を志向しています。一方で慢性期の患者さんも受け入れ、地域完結型の医療実現にも取り組んでいます。検査課は365日24時間の診療体制に対応し休みなく稼働しており、多くの検体検査項目を院内で実施できるようにし、日勤帯の検査と当直帯(夜勤帯)の検査に差がないように努めております。また、検体検査室内に限らず生理検査・検体検査のタスクシェアや、看護師から臨床検査技師へ採血業務のタスクシェアを進めています。採血業務に関しては採血順の理由を理解している検査技師が行うことで品質改善に繋がってきています。採血時の状況もデータを見る際の判断材料のひとつになり、業務改善に役立てられていると感じています。

### 最初にCN10をご覧になった印象は いかがでしたか。

**原** : CN10を最初に知ったのは2019年のPHC主催のセミナー

でCN10ユーザーの先生の講演を聞いたときです。ATの安定性が非常に良く、通常は3~4日しかもたないところCN10では1か月経ってもデータが安定していたという発表が非常に印象的でした。

### CN10導入の経緯を教えてください。

**原** : 病棟の増築に合わせて検査課の場所も移動になり、ほかの装置と同時に凝固装置も更新することになりました。当時はコロナ禍だったためweb見学会でCN10の知識を深めて採用を決めました。

**吉澤技師** (以下、吉澤) : 凝固装置は4機種を検討しましたが、当院は検査数がそれほど多くはないので、処理速度よりも使いやすさと試薬の安定性にポイントを置いて選定しCN10を提案しました。

**原** : 試薬の安定性以外には、検査項目のすべてが液状試薬であることも決め手のひとつでした。導入前は試薬の溶解に起因するヒューマンエラーがあったため、この作業が不要になる



ことは魅力的です。CN10の試薬は清澄で随時攪拌する必要もなく、実際にデータ検討の際も良好な安定性データが得られました。

## CN10導入により 業務に変化はありましたか。

**吉澤:**やはり試薬の安定性は大変優れています。前機種では試薬の劣化によってコントロールが大きく外れることもありましたが、CN10ではそれがなくなり、試薬の管理がとても楽になりました。

**原:**CN10は試薬ボトルに自動開閉キャップが付いているので、それも安定性を保っている要因だと思います。

**吉澤:**操作もタッチパネルで容易ですし、検体ラックが循環するので再検の動作がスムーズで再検漏れも減りました。

## 検査項目としてSFを導入されていますが、 どのようにご活用されていますか。

**原:**昨今高齢化に伴ってDVTといった血栓の症例が増加しています。検査課としては人員の負担やコスト面を考慮し、凝固検査で血栓の有無を確認してから必要に応じてエコー検査を案内するのが理想的だと考えており、CN10採用を機にSFを院内化しました。その結果、元々はオーダーのない項目でしたが、現在では平均30件/月ほどオーダーが出るようになってい

ます。特に整形外科、循環器内科からのオーダーが増えていて、今後さらに有効活用していきたい項目です。

またDVTの検査ではDダイマーと凝固時間はセットでオーダーされることが多いので、CN10の特徴である、測定原理が異なる検査項目が混在していても処理スピードが落ちないというメリットを感じています。

## CN10の波形解析機能について 印象はいかがですか。

**原:**個人的には、その解析から何が読み取れるのか、どのような因子の検査を追加する必要があるのかなどがわかってくると使い勝手が大変良くなると思います。

## 当社に対してご要望はありますか。

**吉澤:**定期メンテナンスも時間帯を考慮していただき、検査に大きな遅延は発生していません。

**原:**1台しかない中、検査を止めることはできないので、メンテナンスの最中も定期的に測定するタイミングを設けていただいております、大変助かっています。

CN10は、使いやすく、オンボード安定性の良い液状試薬を使用しており、これからも当院の凝固検査の力になってくれると期待しています。



左から 原検査課長、吉澤技師、梁瀬技師、竹之内技師



血液凝固分析装置  
全自動血液凝固検査システム  
**STACIA® CN10**  
製品情報はこちら



全自動血液凝固検査システム STACIA CN10 特定保守管理医療機器 届出番号 13B1X10144000038

体外診断用医薬品

この施設で使用している製品は

プロトロンビン時間キット  
コアグジェネシス® PT  
活性化部分トロンボプラスチン時間キット  
コアグジェネシス® APTT  
フィブリノーゲンキット  
コアグジェネシス® Fbg

アンチトロンビンⅢキット  
クロモレイトATⅢ (C) II  
フィブリン・フィブリノーゲン分解産物キット  
エルピア® FDP-P  
フィブリン分解産物キット  
LPIAジェネシス® Dダイマー  
可溶性フィブリンモノマー複合体キット  
イアトロ®SFII

PHC株式会社 診断薬事業部

お問い合わせ先 インフォメーション TEL 03-6865-2500  
URL <https://www.phcd.com/jp/ivd/>

使用上の注意につきましては添付文書をご参照ください。

20240920

2B2410RX-01

2024年10月作成